

# 青木かのチャンネル

2024 夏号(第49号)

発行：青木かの事務所 〒104-0052 中央区月島3-3-13-502



### 青木かのプロフィール

長崎市生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。  
元テレビ局アナウンサー・通訳・英語講師。  
水辺を活用した街づくりと災害対策に取り組む。  
小型船舶免許1級所持。

## 中央区10年後(令和16年)の推計人口は21万4932人

今後の区政運営の重要な要素となる、今後10年間の中央区の人口推計が7月1日に発表されました。想定約99.22%ですので、誤差の範囲と言えますが、今回22万人に達しなかったのは、移動率の低下や開発動向の変化等が原因と考えられます。



その他特徴としては、

- 今の開発状況が続くと、令和9(2027)年度内に20万人を突破する。
- ゼロ歳児数は、本年は一時的に減少するものの、その後はおよそ2,000人から2,200人で継続する。
- 地域別構成比は、令和13(2031)年度で、  
月島地域：48.2% 日本橋地域：29.7% 京橋地域：22.1%で、  
月島地域にほぼ半数が集中する。

## 日本橋川の浄化には浚渫(しゅんせつ)が必要

日本橋に青空を  
(首都高の撤去・地下化)

日本橋川の浄化

この2つは、中央区民にとって長い間の願望でした。ようやく、その第1歩が進み始めています。

最近、都の施策である「舟運通勤」で、豊洲から日本橋船着場まで、舟で数回通いましたが、やはり川の臭いが気になります。特に雨の日には。

これまで区も、日本橋川の水質改善に取り組んできました。EM菌という



有用微生物群を大量に川に投げ込む試み等も行われてきましたが、大きな効果は得られませんでした(区長答弁より)。

今年からHiビーズという火力発電所の石炭灰を再利用した物質を使っでの試みが、船着場周辺で始まりました。どれくらい臭いが軽減されるのでしょうか。今後の動向を踏まえながら、設置箇所が拡大されるということです。

日本橋川の根本的な水質改善には、やはり浚渫(しゅんせつ)が必要です。ヘドロ化した下流域の川底の改善と、上流域からの水量の増加が必要と考えます。



Hiビーズ(石炭灰造粒物)

### 中央区から発信中!

Find us on   
青木かの 検索

@kanoaoki  
<http://twitter.com/kanoaoki/>

YouTube 青木かのチャンネル  
<https://www.youtube.com/user/kanoaoki>

Blog 月島日記  
<https://ameblo.jp/kano-aoki/>

皆様のご意見・ご要望は

青木かのオフィシャルサイト [Kanoaoki.com](http://Kanoaoki.com)

青木かの

または電話(090)4829-4702まで



オフィシャルHP



ブログ

# 臨海部「ほぼほぼぐるり遊歩道」

中央区では、もともと隅田川テラスが早くから整備されており、水辺の遊歩道には恵まれています。基本的には都が再開発やマンションの建替えに合わせて護岸工事を行い、その後区が遊歩道を整備しています。江東区の「豊洲ぐるりパーク」を機に、中央区でも、水辺のテラスを周遊化するご要

望が増えています。そこで、水辺を歩けない部分、または今後整備が期待される部分を確認してみました。(2024年7月調査)

また、これまで使われていなかった「旧晴海鉄道橋」が、来年夏に遊歩道化して復活するのも楽しみです。晴海と豊洲が遊歩道でつながります。

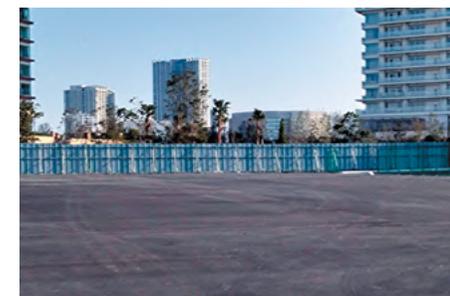
## 晴海1丁目と2丁目を「学園都市」に

写真は、元東京BRTの晴海2丁目ターミナルがあった場所。ここが何になるのか、晴海のまちづくりにとって大変重要な要素です。

「商業施設」のご要望も多いのですが、橋を渡ればららぽーと豊洲があります。大型商業施設は難しいかもしれません。次にご要望が多いのが「教育施設」です。

これまでも、私立の中・高一貫校や大学等ができるという噂のようなものが、出たは消えていきました。もともとこのエリア(晴海1丁目)には公立の教育施設が集中しています。

区立幼稚園・小学校・中学校、そして東京都立晴海総合高等学校と都立大学法科大学院は隣り合って建っています。



東京都立晴海総合高校・都立大学法科大学院



月島第三小学校

平成26年12月に策定された「晴海地区将来ビジョン」では“文化教育施設として将来的な国際感覚を育む環境づくりが推進されるよう区は最適な大学や研究機関等の誘致の早期実現を都へ要望する”とあります。

私は、大学または大学の研究施設やインターナショナルスクールを要望しています。10代から20代の学生等若い方々に住民として住んでいただく。常に住民の出入りがあることで、まちに活気と多様性を与えることにもなります。

